

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

1 事業名等(Plan 1)

事業名	道路施設バリアフリー整備事業											
所属名	基盤整備部維持課管理グループ											
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちづくりをめざして	分野	3	道路・交通	基本施策	1	便利で快適な道路環境を整備する	施策	2	生活に身近な道路の整備
予算科目	7	2	4	交通安全対策	費	72403	バリアフリー対策	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	道路施設バリアフリー整備5か年計画											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	直営 指定管理 業務委託 団体等補助 ○ その他→ 工事請負											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	・高齢者や児童・生徒、障がい者をはじめ、全ての歩行者並びに道路利用者	受益者数	人
	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	・歩行者等の安心・安全な通行を確保する。		
概要	事業の実施手法、手順	歩車共存道路及び歩車段差解消、歩行者移動支援の整備。		
	事業始期・終期	始期： 年度から 始期： 年度まで 設定なし ○		
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 事業計画の確実な実施。			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)	120,000	120,000	180,000	140,000	140,000
総合計画計画額(計画額)	140,000	140,000	180,000	140,000	140,000
事業費	180,649	201,011	180,000		
(計画・予算・見込・決算額)	178,224	188,564			
財源	国庫支出金	44,200	55,000	88,000	
	決算・見込	43,600	54,326		
	県支出金				
	決算・見込				
	地方債				
	決算・見込				
	受益者負担				
	決算・見込				
	繰入				
	決算・見込				
一般財源	136,449	146,011	92,000		
決算・見込	134,624	134,238			
H17国勢調査	96,231人	32,174世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価		
受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %				
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	1,859	1,859		
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	5,630	5,630		
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人				
その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人				
	単位 円/人				

【成果面】

活動・成果指標	活動指標(投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	整備延長					資料・出展 算出式	整備延長 /	単位 m	成果の方向
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度				
活動指標	目標値		940	780	840	334	650			→	
	実績値	1,246	653								
	達成率										
成果指標(活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標)	目標値		940	1,720	2,560	2,894	3,544			→	
	実績値	1,246	653								
	達成率		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	・側溝改修やカラー舗装による歩行空間確保。 ・歩車道の段差解消による平坦性の向上。 ・融雪ブロックや、知らせるあかり設置による歩行者移動支援。
	事業費	748,765 千円 (内容) L=4,117m 651,734 千円 N=45箇所 97,031 千円 その他
	受益者負担	千円
本年度	対象・手段	・側溝改修やカラー舗装による歩行空間確保。 ・歩車道の段差解消による平坦性の向上。 ・融雪ブロックや、知らせるあかり設置による歩行者移動支援。
	事業費	180,000 千円 (内容) L=940m 140,000 千円 N=15箇所 40,000 千円 その他
	受益者負担	千円

【成果面】

項目	評価内容(算定式)		進捗率
	整備状況	評価内容	
本年度	整備見込	940 / 整備目標 940 単位 m	100.00
	決算見込	180,000 / 予算額 180,000 単位 千円	
本年度までの累計	整備累計	5,057 / 全体計画 8,129 単位 m	62.2
	累計	928,765 / 全計画額 1,456,000 単位 千円	63.8
(平成22年度までの整備延長÷全体延長)×100) 100%			
事業の進捗率の考え方			
進捗結果・理由			
○ 計画どおり 未達成			
該当項目に「○」表示			

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 側溝改修・蓋設置、並びにカラー舗装化により歩行空間の確保ができた。また、車道幅員を狭めたことにより、車両の通過速度が抑制された。これらによって歩行者の安全な通行が確保された。融雪ブロック(点字)設置などの整備は視覚障がい者から良い評価を得ている。

判定 A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い

目的評価 **A**

②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	1	増加
----	----	----------	----

(判定理由) 側溝2次製品布設や舗装といった基本的工種であるため、コスト削減は難しい。

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	1	維持	減少
----	----------	----	----

(判定理由) 事業の進捗に伴い、安全安心に通行できる道路が増えている。

項目	②コスト面		
③成果面	増加	維持	減少
	拡大		○
	維持		
減少			
コスト・成果ポジション			
B			
第2水準			

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」		→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」		→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」		→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」		→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」		→ V 「良くない」	「III」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価 主管課

評価区分 **II**

判断の理由及び課題問題点
・工法や資材の比較検討によるコスト削減。

5 今後の方向性(Action)

活動の方針	評価結果に対する改善提案(下記チェック)	計画どおり 実施	改善・継続	終期設定	休止	廃止	完了
	・コスト削減に繋がる新製品の情報収集や工法の検討を行う。						
	次年度実施方針	・5か年整備計画に基づき実施する。					

総合評価		
コスト	成果	評価区分
中	高	II
「I」の水準に向けた改善が必要		
本事業等により、バリアフリーの先進地として本市は高い評価を受けている。今後も市民などの声を聞きながら整備をすすめるとともに、コスト削減にも努める必要がある。		